

第70回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

開催記録【全体会】

1 開催概要

- 日時：令和8年8月5日（水）10：30～12：00
- 場所：JR東日本 現地会議室
- 出席者：表の通り

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&Dセンター テクニカルオフィサー） ・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授）※オンライン
オブザーバー	・文化庁文化資源政策・記念物課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・東京都 交通局 建設工務部 計画改良課 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・JR東日本コンサルタンツ株式会社 ・鉄道博物館 学芸部 ・東日本旅客鉄道株式会社 TOD企画部 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング戦略部 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設エンジニアリング部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部
事務局 東日本旅客鉄道(株) 京浜急行電鉄(株)	・東日本旅客鉄道株式会社 TOD企画部 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング戦略部 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工務部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 他
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配付資料

1) 全体会

- ・ 次第
- ・ 資料 1：信号機跡を含む 5・6 街区間における高輪築堤の現地保存箇所について
- ・ 資料 2：第 69 回本委員会でのご質問に対する回答
- ・ 資料 3：第 21 回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議 議事概要の共有

2 議事要旨

2.1 開会

(1) 開会

- 第 70 回高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局 JR)

2.2 全体会

(1) 開会

- 第 70 回高輪築堤調査・保存等検討委員会の全体会を開会する。(委員長)

(2) 信号機跡を含む 5・6 街区間における高輪築堤の現地保存箇所について

- 資料 1 について説明する。(事務局 JR)

<説明概要>

- ・ 前回の検討委員会で委員長より信号機跡を含む 5・6 街区間の詳細の保存範囲を示すように指示を受けたことに対する内容を説明する。
 - ・ 資料 1-1 に全体平面図を示す。
 - ・ 資料 1-2 に 6 街区側の断面図、資料 1-3 に 5 街区側の断面図を示す。
 - ・ 砂利層の記載は港区教育委員会事務局提供の 3 街区断面図を元に想定して記載している。
 - ・ 資料 1-4 に 5・6 街区間の築堤保存範囲の面積数値を示す。5・6 街区間の築堤範囲が 1,660 m²、そのうち記録保存済み範囲が約 600 m²、現地保存可能範囲が約 1,060 m²となる。
 - ・ 築堤保存範囲は建物側の構造物及び施工クリアランスを考慮して設定。
 - ・ 資料 1-5 に信号機跡の具体的な保存位置及びその内容を示す。
 - ・ 6 街区側に信号機跡の保存のためにセットバックする 6 街区建物壁面ライン、躯体を構築する SMW ライン、SMW の施工クリアランスラインを重ねて示す。
- 資料 1-4 面積図における約 10 m²の記載箇所は、港トレンチ 2 の調査範囲でよいか。(東京都)
 - ← その通りである。(事務局 JR)
 - 現地保存可能範囲に一部記録保存範囲を含むと記載があるが、どのくらいの面積を含むのか。総面積約 1,660 m²に対して現地保存可能範囲の割合が概ね 50%強になるが、その範囲に収まると考えてよいのか。(老川委員)

← 現地保存範囲は青色ハッチで示す約 980 m²と緑色ハッチで示す約 80 m²の合計値である。緑色ハッチは B2 ベント部の現地保存及び記録保存調査の範囲であり、第 10 回検討委員会資料より検出された 182 本の群杭のうち、170 本は現地保存されており、12 本が一部記録保存されたと整理している。(事務局 JR)

→ 群杭確認には、上部の砂利層を全て撤去したという認識でよい。(委員長)

← 砂利層は一度撤去しており、埋め戻しの際に撤去した砂利を先に戻してから埋め戻している。(港区)

→ 埋め戻したからと言って遺構が残っているという言い方はできない。12 本だけを記録保存扱いとするのではなく砂利層も撤去したという扱いにする必要がある。(委員長)

●資料 1-2 以降の図にスケールがないので、後で教えてもらいたい。(委員長)

●資料 1 は検討するうえで重要な資料であり、作成に感謝する。(委員長)

(3) 第 69 回本委員会でのご質問に対する回答

●資料 2-1 について説明する。(事務局 JR)

<説明概要>

- ・「5 街区・6 街区建物部において築堤を跨ぐ建築構造として延長 50mより長い範囲で築堤の現地保存ができないか(文化庁)」という問いに対する回答を示す。
- ・築堤を跨ぐ建築構造は第 54 回・第 64 回検討委員会でシミュレーション結果を示しており、今回も同様に築堤西側部に杭が支障することを前提とした建築構造の計画成立可否を検討した。
- ・築堤を跨ぐために両側に支柱を打つ構造となるが、5 街区においては 5・6 街区間から 1 基目の支柱を置く時点で地下車路ネットワークに支障し、これに伴い駐車場の上下を繋ぐスロープや大規模機械式駐車場も計画することが困難となる。6 街区においても同様に、1 基目の支柱が車路と建物コアに支障するため、過去のシミュレーションと同様に開発計画に大きく支障するという結果となった。
- ・改めて、6 街区建物の壁面セットバックにより信号機跡を含む 5・6 街区間の高輪築堤約 50mの現地保存を行うことが事業者側として許容可能な最大限の検討結果と回答させて頂く。

●説明して頂き感謝する。内容に対して特に意見はない。(文化庁)

●支柱が支障する黄色の着色範囲の凡例を加えていただきたい。(文化庁)

← 地下 1 階平面図で上下階を繋ぐ車路スロープである。(事務局 JR)

→ 凡例を追加して公開資料とすることでいかがか。(委員長)

← 開発計画に係る図面は一部非公開の扱いとなる。(事務局 JR)

→ 了承した。(委員長)

●資料 2-2～2-5 を説明する。(事務局 JR)

＜説明概要＞

- ・「京急線範囲での記録保存箇所と 5・6 街区の開発計画の関係性を踏まえた高輪築堤の遺構状況を示すこと(東京都)」という指示に対する回答を示す。
 - ・指示は特に港トレンチ 1 の範囲と 5 街区建物、5 街区施工クリアランスとの関係と高輪築堤の山側の範囲の関係性を確認するという内容である。
 - ・資料 2-2 に 5・6 街区の全体平面図と 2 断面(C-C'・D-D')の位置を示す。
 - ・資料 2-3 に C-C' 断面図を示す。5 街区トレンチ 4、港トレンチ 1 の調査結果を参照した。
 - ・資料 2-4 に D-D' 断面図を示す。5 街区トレンチ 2 と記録保存済み範囲の内容を参照した。
 - ・資料 2-5 に 5・6 街区の築堤保存範囲の平面図を示す。既往調査結果で分かっている高輪築堤の盛土ライン、山側の盛土の A ラインを重ねて示す。
 - ・盛土 A のラインは 6 街区建物の範囲に入り込むが、5 街区建物は建物計画に支障しない高輪築堤の範囲(青色ハッチ範囲)がある。
 - ・資料に誤植があり、資料 2-3 の上図タイトルを「5 街区 C-C' 断面」に、資料 2-4 の上図タイトルを「5 街区 D-D' 断面」に、それぞれ修正する。
- 資料 2-3 断面図に SMW と施工クリアランスの表記の右側に 2.8m の末調査範囲とあるが、資料 2-5 の青色ハッチ範囲の枠線の建物側は SMW か施工クリアランスかどちらになるのか。(東京都)
- ← 施工クリアランスである。(事務局 JR)
- 資料 2-3 では末調査範囲が 2.8m だが、資料 2-4 の末調査範囲は 7.4m となり、2 倍以上の長さの開きがある。資料 2-5 では両者にそこまでの差があるか判断できないため、数値の事実確認を依頼する。(東京都)
- ← 確認する。(JR)
- ← 資料 2-3 の C-C' 断面について、資料 2-2 より港トレンチ 1 が少し東側にせり出していることが確認でき、この場所だけ狭くなっている。数値は確認して再度提示する。(事務局 JR)
- 資料 2-5 の建物計画支障外築堤範囲(青色ハッチ)と築堤保存可能範囲(紫色ハッチ)はイコールと理解してよいか。(東京都)
- ← 青色ハッチ範囲は現状の建物計画で支障しない高輪築堤の範囲であり、紫色ハッチ範囲は 5・6 街区間で残せるようになった高輪築堤の範囲となる。(事務局 JR)
- 5・6 街区で部分的にでも高輪築堤がどのくらい現地保存できるか、という点が議

論の核となる。青色ハッチ範囲も現地保存できることが明確になれば事業者の協力になるので、取扱いや表現について改めてご検討頂きたい。（東京都）

- 先ほどの指摘と同様、図面に方位とスケールを記載すること。（委員長）
- 資料 2-5 の図の縮尺が小さい。もう少し大きな図面で残る範囲を詳細に確認できるような資料構成としてもらいたい。尺度を持った図面で青色ハッチ範囲を具体的に確認できる図を作成してもらいたい。結果として6街区には高輪築堤が残らないならば、作成する図は5街区だけでもよいので、拡大して詳細を確認できるようにしてもらいたい。（委員長）

（４）第21回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議議事概要の共有

- 資料3について説明する。（事務局 JR）

<説明概要>

- ・第21回有識者検討会議は2026年7月27日に開催した。
- ・主な議題は、信号機跡を含む5・6街区間における約50mの高輪築堤の現地保存を実現できる見通しが得られたこと、第69回検討委員会の協議状況の共有、高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについてのとりまとめに向けての3点である。
- ・とりまとめは、次回の有識者検討会議で議論することを提示して同意を得た。
- ・信号機跡を含む5・6街区間の現地保存に対する主な意見を紹介する。
 - （西村氏）信号機跡が重要な発見であり都市計画変更に十分値することに各立場が同意したかどうか、5・6街区間の保存に対する技術的な課題の有無の確認。
 - （中井氏）解決に至る条件はあるが区画道路の短絡化を行うことで5・6街区間の現地保存を可能にできるという協議会のまとめの報告。
 - （木曽副座長）信号機跡を残すために事業者が建物の一部をセットバックしたことで解決に向けて良い方向が見えてきた。
 - （小野田氏）信号機跡が保存できることが大きな前進である。
 - （老川氏）5・6街区間で現地保存の見通しが立ったことは喜ばしい。
 - （谷川氏）5・6街区間の現地保存に一定の結論を得たことは大変ありがたい。
- ・高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについてのとりまとめに対する主な意見を紹介する。
 - （中井氏）5・6街区の展示や長い築堤区間の全体の中での役割についてメリハリをつけて整理していきたい。
 - （西村氏）築堤全体のつながりが見える配慮をしてもらいたい、日本の近代化に資する遺構であることをうまく伝えてほしい。
 - （木曽副座長）国際的なハブとしての観点と、歴史を将来に発信する観点を融合させた空間ができるとよい。
 - （松浦座長）全体像の中で、どのような位置づけとするかが高輪築堤の価値のあ

り方として非常に重要な観点だ。

（谷川氏）検討委員会は保存について検討する会議体であること、遺構の発掘調査の生々しい成果をまちづくりに活かすことができればよい。

（小野田氏）ある程度連続して残ることが重要である。

（老川氏）当時のまちづくりと築堤の関係性についても重要な観点である。

- 議事概要の作成は事務局に一任されていることはよいが、議事録が確定している場合は議事録を優先させることを確認したい。（委員長）

← これまでも有識者検討会議の議事概要の共有を本委員会で行っており、関係者の確認を踏まえ議事録を作成している。今後も指摘の通りに扱っていく。（事務局 JR）

（５） その他

（６） 閉会

＜全体会・部会①・部会②終了後＞

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。

← （文化庁浅野氏）特にない。

← （都教育鈴木氏）特にない。

← （港区山本係長）特にない。

- 次回委員会は９月２日（水）１０時 ００ 分より、会場は TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川（京急 11 ビル）ホール 5A での開催を予定する。本日はこれで閉会とする。（事務局 JR）

3 議事録

3.1 開会・議事録確認

(1) 開会

- (事務局 JR) 第 70 回高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。本日は全体会・部会①・部会②の開催となる。
- ・ 資料確認
 - ・ 次第説明

3.2 全体会

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 信号機跡を含む 5・6 街区間における高輪築堤の現地保存箇所について

- (事務局 JR) 資料 1 について説明する。前回の本委員会において委員長より、信号機跡を含む 5・6 街区間において詳細の保存範囲を示すように指示を頂いたため、事前に委員長に相談させて頂き、全体平面図及び断面図を作成した。6 街区側の断面は資料 1-2、5 街区側の断面を資料 1-3 に示す。いずれの断面図も想定を含むので、記載の延長等の数値は参考値として取り扱う。資料 1-3 の砂利層の記載は、港区教育委員会事務局より提供を受けた 3 街区の断面図を元に想定として記載している。資料 1-4 は 5・6 街区間の築堤保存範囲の面積数値を示す。約 1,660 m²の範囲が 5・6 街区間の築堤範囲と考えており、そのうち現地保存の可能範囲は 1,060 m²となる。この範囲は前回の検討委員会で説明した通り、建物側の構造物、施工クリアランスを考慮して設定している。資料 1-5 に信号機跡の具体的な保存位置及びその内容を示す。平面図で赤線表記の石垣等が信号機跡、緑線表記が信号機跡に隣接する高輪築堤の石垣となる。6 街区については信号機跡の保存のために壁面をセットバックしており、その躯体外壁ライン、躯体を構築するための SMW ライン、SMW を構築するためのクリアランスラインを合わせて記載する。壁面を最大限セットバックしたことで信号機跡と高輪築堤の石垣を残せるようになったことを示す。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (東京都) 資料 1-4 の面積図について、340 m²の西側に約 10 m²とあるが、これは港トレンチ 2 の調査範囲ということでしょうか。
- (事務局 JR) その通りである。

- (老川委員) 記録保存済みが 600 m²で現地保存可能範囲が 1,060 m²という説明について、現地保存可能範囲に一部記録保存範囲を含むと記載がある。1,060 m²に記録保存範囲の何m²を含むのかによって、総面積 1,660 m²に対してどのくらいの面積割合が現地保存可能範囲になるのか。概ね 50%強、60%弱くらいが、その範囲になると考えてよいものなのか。
- (事務局 JR) 現地保存可能範囲は青色ハッチで示す 980 m²と緑色ハッチで示す 80 m²の合計値となる。緑色ハッチは資料 1-1 に示す解説図にある通り B2 ベント部の範囲であり、ここでは現地保存と一部記録保存が行われている。第 10 回検討委員会で提示した資料を参照しているが、この範囲で検出された群杭 182 本のうち、170 本は現地保存されており、12 本が一部記録保存されたと整理している。
- (委員長) 群杭を確認したということは、その上層の砂利層はすべて撤去したという認識でよいのか。
- (港区) 過去の調査で砂利層は一度撤去している。埋め戻す際に撤去した砂利を先に戻してから埋め戻している。
- (委員長) 基本的には元々の堆積土を外しているのだから、埋め戻したからと言って遺構が残っているとは言えない。私も現場を何回か見ているが、砂利層は全部撤去しているので、正確に言うと 12 本だけを記録保存扱いするのではなく砂利層も撤去しているという扱いにしないといけないと思う。群杭を被覆しているので、砂利層を外さないと群杭は出てこない。
- (委員長) 資料 1-1 はよいが、資料 1-2 以降にスケールが記載されていない。後で結構なので教えてもらいたい。図面のスケールがあれば、他の部分を計測したいというときに便利である。図面にスケールと方位を入れるのは約束事である。
- (委員長) この資料は検討するうえで重要な資料となる。作成に感謝する。
- (委員長) 次に進める。

(3) 第 69 回本委員会でのご質問に対する回答

- (事務局 JR) 資料 2 について説明する。資料 2-1 については、第 69 回検討委員会資料の別紙 5-3 に対して、文化庁からの「5 街区・6 街区建物部において築堤を跨ぐ建築構造にすることで延長 50m よりも長い範囲で築堤の現地保存ができないか」という問いに回答する資料となる。築堤を跨ぐ建築構造のシミュレーションについては、第 54 回・第 64 回検討委員会で資料を用いて説明している。今回、第 64 回の検討と同様に築堤西側部に杭が支障することを前提として、跨ぐ建築構造の計画成立の可否を検討した。築堤を跨ぐために両側に支柱を打つ構造となるが、5 街区においては支柱を 1 列設置する場合でも、駐車場の

上下を繋ぐ車路に支障する形となり、これまでの検討と同様に開発計画自体に大きく支障することとなる。6 街区においても同様に柱を 1 列設置した場合であっても、車路や建物コアに支障して建物計画が成立しないということになる。改めて 6 街区建物の壁面をセットバックして信号機跡を含む 5・6 街区间約 50m の現地保存を行うということが、事業者側として許容可能な最大限の検討結果と回答させて頂く。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(文化庁)

説明して頂き感謝する。内容に対しての意見は特にはないが、柱が支障するという黄色部分の説明が凡例にない、資料に追加していただきたい。

(事務局 JR)

地下 1 階平面図で上下階を繋ぐスロープとなる。

(委員長)

凡例を追加して公表資料の形とすればいかがか。

(事務局 JR)

開発計画に係る図面は資料公開の際は一部非公開の扱いとなる。

(委員長)

了承した。

(事務局 JR)

資料 2-2 を説明する。第 69 回検討委員会において東京都教育庁から「京急線の範囲で記録保存をしている箇所と 5・6 街区の開発計画との関係性を踏まえた高輪築堤の遺構の状況を示すこと」という指示に回答する資料となる。

資料 2-2 に 5・6 街区全体平面図と 2 断面の位置を示す。資料 2-3 で C-C' 断面を、資料 2-4 で D-D' 断面を示している。C-C' 断面については、5 街区トレンチ 4、港トレンチ 1 の断面を参照している。前回の指示については特に港トレンチ 1 の範囲と 5 街区建物、5 街区の施工クリアランスとの関係と、高輪築堤の山側の範囲がどのような状況になるのかという内容であった。D-D' 断面については、5 街区トレンチ 2 と記録保存済みの範囲の内容を参照している。こちらも同様に高輪築堤の山側の状況を確認していただきたい。資料 2-5 に 5・6 街区の築堤保存範囲として平面図を示す。既往の調査で分かっている高輪築堤の盛土ライン、山側の盛土 A のラインについて記載しているが、盛土 A が 6 街区建物の範囲に入り込んでいる。5 街区については資料 2-3 および資料 2-4 の断面図でも示す通り、建物計画に支障しない高輪築堤の範囲があり、青色ハッチで示す。

(東京都)

資料 2-3 の断面図に、SMW と施工クリアランスの重ねの表記があり、その右側に 2.8m の未調査範囲とある。資料 2-5 の青色ハッチの建物に近い側の枠線は、SMW か施工クリアランスか、どちらになるか。

(事務局 JR)

施工クリアランスとなる。

(東京都)

そうであるならば、資料 2-3 の未調査と想定 2.8m の範囲が青色ハッチになるが、資料 2-4 を見ると未調査の範囲が 7.4m とあり、2 倍以上の長さとなる。資料 2-5 にスケールがないので確認できなかった、この幅があっているかどうか、事実確認をお願いする。

(JR)

確認する。

- (事務局 JR) C-C' 断面については、資料 2-2 を見ると、港トレンチ 1 が少し東側にせり出していて、この場所だけ築堤が狭くなっている。数値は確認して再度提示する。
- (東京都) 資料 2-5 の建物計画支障外築堤範囲となる青色ハッチの範囲は、築堤保存可能範囲となる紫色のハッチの範囲とイコールという理解でよいのか。
- (事務局 JR) 青色ハッチの範囲は現状の建物計画で支障しない高輪築堤の範囲となる。紫色ハッチは 5・6 街区間で残せるようになった高輪築堤の範囲ということになる。
- (東京都) 5・6 街区で高輪築堤が部分的でもどのくらい現地保存できるのか、というのは、議論の核になる。青色ハッチの範囲も現地保存が明確になれば事業者のご協力の範囲になるので、取扱いや表現方法について、改めてご検討頂きたい。
- (委員長) 先ほどの指摘と同様で図面にスケールと方位を記載してもらいたい。
- (委員長) 資料 2-5 の図の縮尺が小さく、もう少し大きな図面の中で詳細に残る範囲を確認できるように資料を構成してもらいたい。5・6 街区間と同様のスケールのある図面で青色ハッチ部を具体的に確認できる図を作成してもらいたい。結果として 6 街区が残らないということであれば、作成する図は 5 街区だけを取り上げてよいので、もう少し拡大して詳細を確認できるようにしてもらいたい。
- (委員長) 次に進める。

(4) 第 21 回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議議事概要の共有

- (事務局 JR) 資料 3 について説明する。第 21 回有識者検討会議は 2026 年 7 月 27 日に開催した。主な議題は、第 69 回委員会でも報告した信号機跡を含む 5・6 街区間について約 50m の現地保存を実現できる見通しが得られたこと、第 69 回検討委員会の協議状況の共有、高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについてのとりまとめに向けた意見交換の 3 点である。とりまとめについては、事前に第 21 回有識者検討会議でまとめを行う提案を受けていたが、事務局から次回の会議でとりまとめを議論してもらう旨を説明し、同意された。
- 会議における主な意見を紹介する。西村氏から、信号機跡が重要な発見であり都市計画変更には十分値することに各立場が同意したという理解の確認や、5・6 街区、5・6 街区間の保存に関して技術的に難しい課題が残っていないのかという質問が挙げられた。これに対して中井氏から、協議体で議論して解決に至る条件はあるものの、結論として区画道路の短絡化を行うことで 5・6 街区間の現地保存を可能にでき

るというまとめになった報告があった。木曽副座長から、信号機跡を残すために事業者が建物の一部をセットバックしたことで解決に向けて良い方向が見えてきたという意見が挙げられた。同様に小野田氏から信号機跡が保存できることが大きな前進であるという意見。老川氏から 5・6 街区間で現地保存の見通しが立ったことは喜ばしいという意見が挙げられた。谷川氏からも、5・6 街区間の現地保存の問題に一定の結論を得たことは大変ありがたいという意見が挙げられた。

高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を十分に踏まえたまちづくりについてのとりまとめにおいては、中井氏から、5・6 街区の展示や長い築堤区間の全体の中での役割として、メリハリをつけて整理していきたいという意見が挙げられた。西村氏から、築堤全体のつながりが見える配慮をしてもらいたいということや、日本の近代化に資する遺構であることをうまく伝えてほしいという意見が挙げられた。木曽副座長から、国際的なハブとしての観点と歴史を将来に発信する観点を融合させた空間ができるとよいという意見が挙げられた。松浦座長からは、全体像の中でどのような位置づけとするかが、高輪築堤の価値のあり方として非常に重要な観点だという意見が挙げられた。谷川氏からは検討委員会は保存について検討する会議体であるということと、遺構の発掘調査の生々しい成果をまちづくりに活かすことができればよいという意見が挙げられた。小野田氏から、ある程度連続して残ることが重要であるという意見が挙げられた。老川氏から、当時のまちづくりと築堤の関係性についても重要な観点であるという意見が挙げられた。

次の第 22 回有識者検討会議は 9 月 8 日の開催を予定しており、この会議をとりまとめの場とすることで議論を終えている。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 資料は議事概要である。議事概要の作成は事務局に一任されていることはよいが、議事録自体も今後作成されていくと思う。双方に齟齬が生じる可能性は否定できないので、本委員会の共有資料としては、議事録が確定した場合は議事録を優先させるということを確認したい。

(事務局 JR) これまでも議事概要の共有を本委員会で行っており、議事録については関係者確認を踏まえ作成している。今後も指摘の通り扱っていく。

(委員長) 次に進める。

(5) その他

(委員長) その他は何かあるか。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(6) 閉会

(委員長) 全体会を終了する。

<全体会・部会①・部会②終了後>

(委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁) 特にない。

(東京都) 特にない。

(港区) 特にない。

(事務局 JR) 次回の定例委員会は、9月2日(水)10時00分より、会場はTKP
ガーデンシティ PREMIUM 品川(京急11ビル)ホール5Aを予定す
る。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以 上